

4-2 社会を変える技術革新

日本政府は来年から5年計画で、総額1,150億円を投資して技術革新をしようということで、その名は「ムーンショット」と呼ばれるものです。目標は6つあって、制約のない自由な社会、即座に身体の疾患を予測して予防する技術、人間と共生するロボット技術、資源や物質を循環させる地球環境保全技術、食料の増産と地球環境保全との両立のためのシステムの確立、量子コンピューターの実用化というものです。いずれの社会に大きなインパクトを与えるものばかりのような気がします。無駄のない成果を期待しているところですが、これだけのものを期待するには、なんか予算があまりにも少額な気がして、総花的で散ってしまわないか、今後継続して支援するだけのものが得られるのかが気になります。

今回の研究内容の公募については、防災に関してはありませんが、国土保全ということからも国家的な目標にする必要があると思っています。自然災害は、抑制も抑止もできない自然現象から起きているわけで、ことによると国家の安定にもかかわるものになる可能性もあります。少なくとも、事後の対策では十分ではありません。事前からの危機管理とマネジメントが求められています。いつ来るのかわからないのは確かですが、必ず来ることは確実で、その雰囲気が高める要因は地球温暖化や国土の土地利用というところが背景になってきています。防災技術は社会を変える革新的なものではありませんが、社会を維持継続していくためには不可欠なものです。「元も子もない」という言葉がありますが、もとは元手、子は利益のことですが、まさに我々が生活の基盤になるところがまず安定で安全なければなりません。何かあれば月に飛び出して暮らすこともできません。我々にとっては、現在居住しているこの国土こそが基礎であり基盤・基本となります。

今までの時代のままに国土を利活用してきたことを見直して、自然災害に対応するということが国是とすることこそが重要なことで、そのためにどのような対応が必要になり、国土政策に生かし、実施していくのかということをご構想することに着手すべきで、その内容は公開され、議論されていく必要があるように思います。ここでは総論賛成、各論反対が出ることは確かではありますが、ここで、その日暮らしで先送りしていくと、その間に足元の砂は流亡し続けることとなります。

今回の「ムーンショット計画」は、国土の安定と両輪であるような気がしますし、本気で取り組む課題で地味ながら、防災が必要な政策にならなければならないと思います。それこそ、政・官・学で代表者を指名して、それへのアプローチを構想するための予算建てをすべきです。その予算は、新たな措置を考える前に、これまでの関係機関や組織に配分されていたものの一元化で相当分が可能な気がします。まずは、国土の安定のために大所高所に立った考え方を構築すべきです。このことで、はじめに述べた社会を変える技術革新の6つの目標の下支えになるということの認識を共有することが必要な気がします。ここでも、必要なものは何か、欲しいものは何かを峻別して、無駄なことがないようにあらゆる領域から目利きが必要な気がします。